

令和 8 年度

大阪大学

一般選抜（前期日程）

解答例又は出題の意図

国語（HFJE）

## I

出題文は、渡邊雅子『論理的思考とは何か』（2024年、岩波新書）の序章「西洋の思考パターン」の中から「科学的発見の論理」の一部を取り上げたものである。

科学的発見の論理は、数学的帰納法として数学で帰納を取り扱う以外は、受験生にあまり馴染みのない題材であると思われるが、出題文の文章は、平易に書かれている。科学的発見の論理として用いられる、演繹、帰納、アブダクションの三つの論理の概要と特徴について、筆者の記述を正しく読解し、整理し、その結果を記述できるかを問うものである。

問一は、本文中の記述から「演繹」と「帰納」の概要を正しく読解できているかを問うものである。

問二は、科学的探究の三段階のうち、どこに「まったく別の説明が可能になる可能性」が潜んでいるかを、本文中の記述から読解することを問うものである。

問三は、アブダクションは欠点もある論理でありながら、科学的発見の論理として用いられる理由を著者は本文中に記述しているが、それらを整理して制限字数以内にまとめて説明できるかを問うものである。

問四は、「個人の探求」の結果がどのような形態で「公共の知識」になるのか、その形態を筆者が本文中でどういう単語を用いて表現しているかを問う問題である。

問五は、「帰納」や「演繹」という推論の性質と「アブダクション」という推論の性質を本文中の記述から読解し、その質的な差異を問うものである。

## II

出題文は、文化地理学者の森正人の著作『誰が場所をつくるのか——ポストヒューマニズム的試論』（新曜社、2024年）の「10 場所と自然」の一部である。ここで著者は、「自然」があらかじめ存在するものではなく人間によって生産されるものであるという、地理学をはじめ人文・社会科学で近年共有されるようになった議論を、事例を含めてわかりやすく整理、紹介している。出題文における概念の使用や論理の展開を的確に把握できるか、またそれを踏まえて著者の議論を自分の言葉で適切に言い換えたり要約したりして表現できるかどうかを問う意図で出題した。

問一は、文中に用いられている漢字を正確に書くことができるかを問うものである。

問二は、文中において説明されている「自然観」について、指示に合致する箇所を的確に見つけ出し、指定された分量でまとめられるかを問うものである。

問三は、「自然と文化（人間）とが対立しない」という論理を、本文に即して的確に理解し説明するとともに、指示の内容に合致するように本文中の事例を要約して位置づけ、指定された分量で適切に文章にまとめられるかを問うものである。

問四は、本文で論じられている「第二の自然」と「第三の自然」の共通点と相違点を

的確に理解し、指示の内容に合致するように整理し、指定された分量で論理的に説明する文章にまとめられるかを問うものである。

### III

出題文『年々随筆』は、筆者の石原正明<sup>まさあきら</sup>が、荻生徂徠の『南留別志』の主張を駁する随筆で、古典文法の基本的な知識によって読める文章である。問いはいずれも、当時の筆者が、どのような論理と根拠に基づいて、どのような主張を行っているか、本文に即して理解できているかを問うものである。

問一

- a 文脈上、「これ」が何を指すのかを理解し、現代語訳ができているかを問う。
- b 古典文法の基本的な語彙・文法項目を理解し、現代語訳ができているかを問う。
- c 文脈上、「御ゆ」が何を指すのかを理解し、現代語訳ができているかを問う。

問二

第二段落の筆者の主張を理解できているかを問う。特に、『南留別志』の主張と筆者の主張の差異を理解できているかを重視する。

問三

第三段落の筆者の主張を理解できているかを問う。特に、『南留別志』の主張と筆者の主張の差異を理解できているかを重視する。

問四

第四・五段落の筆者の主張を理解できているかを問う。特に、反駁のための直接的な根拠が何であるか、適切に理解できているかを重視する。